

特集 夢を染めあげる若者たち

自然色の作品に思いを込めて



アトリエと生活環境

自宅の隣にあるアトリエと、周囲の自然は、岡田朋子さんの制作活動の拠点です。「主に使用しているのは、美術教師の父です」と言うアトリエには、二人の作品がところ狭しと飾ってあります。直射日光や温度管理に気をつけなければならぬ染料も、床下に大切に保管されています。「この環境があるから続けたいける」と家族の存在も大きな支えとなっています。父と母、二人の妹と祖父母は、

自然を写す作品たち

「もちろん制約はありますが、いろいろな表現ができます。例えば大きなものから小さなものまで」という染色。県美展で入選した「夜の樹」をはじめ、「蝉」や「水草」「海胆」などの作品名のおり、動植物を題材にしたものが多く、自然を表現しています。その表現も、そのままではなく、変化をつけながら、自然の中に存在する不思議なところを出しています。

よき理解者でもあります。「やっていくうちに、いろいろなものが見えるものです。自由にやってほしいですね」と父親の睦生さんは温かく見守ります。制作活動の気分転換は、愛犬や、烏骨鶏のひなの散歩。家族と生きもの、そしてこの自然の中で作品は生まれます。

ろうつ染め
岡田朋子さん
(小泉町)

染料は五倍子、矢車、藍、紅花など、植物が中心で、自宅で栽培しているものや、山の中で採取したものも使います。



▶現在、のれんを制作中

これまでに制作した作品は50点以上。大作もあれば、スカーフやコースター、テーブルセンターなど、日常生活で使えるものも作っています。作品は、天然染料から生まれる優しい色あいが大変印象的で、自然との調和という言葉がぴったりです。

季節や天候に従って

素材、染料、モチーフやイメージなどを考えながら構想を練ります。構想がまとまると、下絵を描き、それをもとにはけを使って色を染めていきます。

染まってしまうところは、ろうつを塗っておくことで模様をつけます。

染料を塗るときには、はけの跡が残らないように手早く、均一になるまで数回繰り返します。

染めているときの表情は、真剣そのもの。布を見つめるまなざしには、染色を通して思いを表したいという強い情熱を感じます。



まゆ 菌と木を表現した「夜の樹」



特集

夢を染めあげる若者たち



染料を塗る作業は、主に屋外で行います

「太陽に当てながら乾かすので、完成するまで分かりません。環境によって作品は変わります。乾かしている途中も、細心の注意が必要です。夏は気温が上がって、ろうが溶けたり、冬はひび割れたりします。鳥のふんにも油断できません」と、天候や季節に左右される苦労があると言います。

学生時代は陸上部

小泉町で生まれ育った岡田さんは、小さい頃は、木登りやセミとり、近所の古墳めぐりなど、外でよく遊ぶ子どもでした。

クラブ活動は中学校、高等学校の6年間、陸上部に所属していました。



賞状は今も大切に保管されています

もの作りは楽しい

大学では、地域文化の重要性を学びました。その後、島根県の旧石見町での香木の森

「運動会では、めだつていたかも」と照れながら教えてくださいました。
小さい頃から好きだったという絵画も、高校一年生のときに、県のデザインコンクールで特選をもらったこともあります。

出会い

研修に参加して、1年間過ごしました。
自然に囲まれた環境で生活する中で、クラフト作りやハーブ栽培、農業体験などをするうちに、そのすばらしさを体感し、「ものを作ることは楽しい、農業も楽しい」という思いが生まれました。

「先生がいたから、染色ができるようになり、今の私がある」と岡田さんが言う恩師の杉谷富代さんとの出会いは、三原での染色教室でした。その後杉谷さんのアシスタントになる岡田さん。大きな出会いとなりました。
「色は、草木からいただいている。染める材料になる草木を大切に」という杉谷さんの言葉に込められた思いは、岡田さんの制作活動の原点でもあります。



思いを伝える作品づくり

杉谷さんから学んだ日々は、旧石見町での研修時代に感じた「ものを作ることは楽しい」という気持ちをさらに強めていきました。
「庭仕事は大好きで、農業も手伝っていますよ」と、制作以外でも自然との関わりは深いものがあります。

「制作や農業に、定年はありません。マイペースと自然体で、80歳になっても続けていきたいです。作ったスカーフや手ぬぐいを、みんなに使ってもらえたらうれしいです。
自然を大切にしようという思いを作品に込め、伝えること、そして父と一緒にこのアトリエで個展を開くことが夢です」と語る岡田さん。
家族への感謝の気持ちや、自然への思いを込めた作品に、大きな可能性を感じます。

父と母も応援しています



岡田和子さん、睦生さん (小泉町)

自然が好きな娘です。材料を取るのがとても上手で、細かいところまでよく見て、ていねいに制作しています。素材を大事にして、いろいろなものを探しながら、自分が納得する表現をみつけてほしいですね。

久井町出身の染織作家



杉谷富代さん (広島市)

自分に厳しく、いろいろな分野に挑戦できる女性です。将来を楽しみにしています。

言葉のツボ

ろうけつ染め
ろうを布につけ防染し、
模様を表す技法。